

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000316		
法人名	有限会社 アールエムシー		
事業所名	洛和グループホーム千代原口 1Fユニット		
所在地	京都市西京区御陵谷町 29-2		
自己評価作成日	平成22年9月25日	評価結果市町村受理日	平成23年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2674000316&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流に力を入れるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、職員で作り上げたホーム独自の理念に基づき、本人や家族、職員がコミュニケーションを取りながら、その人らしく過ごせる為にどのように支援するかを、アセスメントであるセンター方式の様式から導き出しています。これまで大切にしてきた人や場所の把握を行い、中には家族の協力を得て、夫婦の思い出の場所に二人で外出できるよう企画し実施する事が出来ました。利用者の思いにそった生活を支援する中で生じるリスクについても職員が共有し注意を払うとともに、家族にも説明をしています。また、地域の方に対して認知症のサポーター研修を行い認知症に対する理解を深めるとともに、ボランティアによるお茶会やちぎり絵などを利用者と共にしたり、消防署の協力を得て地域の方と共に消防訓練を行う企画を立てるなど、地域との良好な関係作りにも努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域でその人らしく暮らせる支援をしている。又、地域交流への参加も行なっている。	法人理念を基に職員全員で地域に根付いたホームにしたいという思いが込められた事業所独自の理念を作り上げています。理念に基づいて日々のケアを通して利用者主体の活動を心がけ具体的なケアについては職員の意思統一を図り実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方のボランティアを依頼したり、ホームでの催し物への参加を呼びかけたりしている。	自治会に入会し、町内の運動会、夏祭り等に参加しています。又、近所の方が定期的にホームでお茶会、コンサートなどを開催してくれます。現在スプリンクラーの工事中であり地域の方が心配し様子を見に来てくれる等顔馴染みの方が増え日常的な交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の中で、認知症の勉強会を行なった。又、地域の方を対象とした勉強会を計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告を行ない、地域包括・民生委員の方々の意見を参考にしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に行事に合わせて行い、今の現状を見てもらい、参加者からの意見、要望、助言を頂き、サービスの質の向上に努めています。又、ホームでの事故や苦情についても全て報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。	区のサービス調整委員会には出来るだけ参加しホームの状況を報告・相談したりと情報の交換を行っています。又、法人の介護支援部を通して研修にも参加しています。介護相談員の受け入れをしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。玄関の施錠等、必要な場合は家族と相談して行なっている。	身体拘束に関する研修を職員対象に年1回行っています。又カンファレンスを月に2~3回行い本来あるべき姿を話し合い理解を深め利用者が自由に生活出来るように取り組んでいます。ホームの玄関は利用者の安全を守るために施錠していますが、時間帯によっては開錠し、利用者の行動を止めることなく見守るよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。		

洛和グループホーム千代原口(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受講し、理解を深める。参加した者が会議にて研修内容を発表し、他職員へ周知する事に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、説明を十分に行ない、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にアンケートを配布し、意見を収集している。データをまとめ、書面にて家族に返答している。	年に2回の満足度アンケート調査を行い、その中で出来る事は速やかに対応しています。又、意見箱も設置しています。家族の面会等の時に直接職員が意見を伺い改善に取り組み、運営に反映したうえで、内容を全て家族に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で話し合い、意見・提案を反映させている。	月に2～3回カンファレンスを行い、職員からの様々な企画の提案もあります。又利用者の状況に変化があればその都度カンファレンスの開催を増やしケアに対する思いを聞き、対応を話し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケート調査及び聞き取り調査を行なう事により、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修への参加を呼びかけ、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域運営推進委員会を2カ月に1度開催して民生委員・地域包括等と情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の思い、願いを聞き取るように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者・家族の思い、願いに耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の対応を最優先とし、訴えには必ず耳を傾けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時等に近況報告をし、利用者との密接な関係を保つように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	良い関係が途切れないように支援に努めている。	家族の協力を得て今までの馴染みの方との電話、面会、手紙のやり取りの支援を行っています。又、個別レクリエーションとして昔馴染みの場所への外出を計画し実施しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション時等において、良い関係になるように職員が支援している。		

洛和グループホーム千代原口(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	高齢者ボランティア受け入れ施設として登録している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者や家族から情報収集し、ニーズを把握しアセスメントしている。	利用者や家族の思いを把握し、また出来る事出来ない事、意向等日々のケアを通して心情を汲み取りセンター方式の様式を利用してスタッフ全員で記入しアセスメントを行っています。利用者本位の生活支援をに向けて職員間で共通認識を持てるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者や家族から生活歴や生活環境等の情報を収集し、今までの生活を少しでも尊重出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方については、個人のペースを尊重し、無理のないように配慮している。日々変化する心身の状況を観察し記録を行ない、スタッフ間で共有し把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間でカンファレンス(月2回)を通して話し合い、又、家族からの意向や情報を元に介護計画をスタッフ全員で作成している。	センター方式や介護記録、本人・家族の思いを元にカンファレンスを行い利用者一人一人に合わせた介護計画を作成しています。又、主治医・訪問看護師より意見、指導を頂き介護計画に反映しています。状況の変化にも随時計画の変更が行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の毎日の状況やケア等記録している。又、一日の生活状況や変化等は、ボードや申し送りノートに記入し、情報を共有しているが、ケアの実践等個人差がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院を母体とし、介護支援部として訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所等と連携し、事業所の多機能性を活かした支援をしている。		

洛和グループホーム千代原口(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区の老人福祉センター主催の書道教室に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の意向を踏まえ、かかりつけ医に日々報告・連絡し、特変がある時は指示を仰ぐ。週一回の往診日には前もって一週間の各人の身体状況等を細かく報告し往診時にはスタッフが立会い適切な医療ケアに繋げる。	かかりつけ医は、希望を伺い対応していますが、重度化に伴いホームの主治医の往診を希望されています。主治医とは連携を密に図り24時間連絡体制のもと健康管理を行っています。又、受診後の結果を家族に報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、看護師が訪問し、一人一人の身体状況をチェックし、必要な処置や健康管理についてのアドバイス・指導を受け、日々のケアに活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、グループホームでの情報を病院に提出し、家族との連絡、面会をして連携体制を取り、利用者が安心して入院生活を送れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に来て頂き、往診医からの十分な説明の下で、終末期に向けたケアの有り方について話し合いを行なっている。	入居時に終末期に向け看取りの指針についての説明を行い同意を得ています。利用者の状況に変化のあった時には、往診時家族に同席して頂き担当医より説明してもらっています。個々に指示をもらいカンファレンスを行い職員間で共有しながら利用者と家族の意向に寄り添う支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、対応について把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行なっている。	消防署からの指導の下ホーム独自で消防訓練を行い、連絡体制も表示しています。又夜間を想定した訓練も行っています。次回地域の方に参加してもらい消防訓練を予定しています。	地域の方の参加協力が得られ訓練が実現されることで、グループホームの特性を理解してもらい、今後協力し合える関係が深められていく事が期待されます。

洛和グループホーム千代原口(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドを傷付けない言葉掛けを心掛ける。	利用者一人ひとりに尊敬の気持ちを持って対応しています。又、人権尊重等の研修を受講し日々の対応では不適切な対応については個別に指導を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを汲み取り、行動に沿う支援を心掛ける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のニーズを把握し、それに対応できるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の個性に応じた身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備等、出来る事は手伝って頂く。食後の皿洗い等も一緒にする。	週に1度食材が届き、利用者と相談しながら献立を立て足りない食材は職員と共に買い物に行き、下ごしらえ、味付け、後片付け等出来る事を一緒に行っています。希望を聞きうどんやラーメンなど外食に出かけることもあります。又、ムース食の方にもお正月はムースのおせちを提供出来る様に準備中です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個人に合わせ提供している。水分量はチェック表で摂取量を把握している方あり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・就寝前の口腔ケアを行なっている。義歯は每晚消毒を行なっている。		

洛和グループホーム千代原口(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の訴えがあれば、すぐに対応する。訴えがない場合、排泄パターンをチェックし、声かけし誘導する。	利用者一人ひとりの排泄パターンを1週間分の記録を取って把握し、個々に合わせて排泄の誘導を行っています。又排泄のサインを見逃さないようにし、排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、十分な水分と食物繊維・ヨーグルトを摂取できるように配慮し、散歩等で運動確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調・精神状態等を見ながら声かけをしている。	利用者の生活習慣や希望に合わせて入浴が出来るように工夫しています。夜間の入浴を希望される方にも対応できるように職員の勤務を調整しています。入浴は清潔とリラクゼーションを兼ねくつろいだ気分で入浴できるよう心がけて支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠されている時は、椅子からソファに移動又は居室での臥床の声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストを利用者ごとにファイルし、各自理解できるようにしている。薬の勉強会も行なっている。状況と必要に応じドクターに指示を仰ぎ、調節している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸(自家菜園で野菜を育てる)・フラワーアレンジメント・ちぎり絵等利用者のニーズに応じた楽しみ事を提供し、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出る・外気浴を楽しむ・一緒に買い物へ行く等の支援をしている。	外気浴、散歩は状態に合わせて毎日行い、更に外出行事として全員で行うものと個別に行うものがあります。中には外部の書道や陶芸などの習い事に参加し地域の方とのふれあいもあります。又家族の協力のもと思い出の場所への外出も行ってます。	

洛和グループホーム千代原口(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者は小銭程度を所持されている。又、外出レクリエーション時にお金を職員が所持し、おみやげを購入されたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から利用者に定期的に電話をかけてこられたり、又、利用者から家族に電話をかけたりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り・花等を設置している。	共有空間は家庭的な食器棚や食卓、ソファなどの家具が置かれ、落ち着いた雰囲気があります。廊下にはベンチが設置され自由に一人でくつろいだり休憩の場所として利用されています。玄関には利用者が作った陶芸や、ちぎり絵が飾られ季節感が感じられません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係を考慮し、席替えしたり、穏やかに過ごせる場の提供をカンファレンスで話し合っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清掃・衣類の整理等、本人に声かけ適時行ない、転倒原因になるものがないかチェックしている。	自宅で使い慣れた、お気に入りの家具やカーテンを設置したり、家族の写真を部屋に飾り一人ひとりにあった居心地の良い空間を工夫しています。また、転倒せずに暮らせるよう家族と相談し、家具の配置を変えたり、手すりの設置などを行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の近くで家事をする事により、自発的な生活へと繋げる工夫をしている。		